

西九州現代俳句協会会報

No.24 (R 3. 5.13)

| 印 刷 | 發行所 | 編 集 | 会 長 |
|----------|---|-----|------|
| エ デ イ ツト | 〒852-8125 長崎市小峰町3-16 西九州現代俳句協会事務局 倉田明彦 | | 前川弘明 |

令和二年度の西九州現代俳句協会の総会ならびに句会は、令和三年一月二十一日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行のため、安全な開催が困難となりましたので、昨年に引き続き中止いたしました。

会長挨拶 前川弘明

桜咲く季節になりましたが、会員の諸氏には変わらず

清栄のことと存じます。

然しながら、昨年来のコロナウイルスは依然として終息することなく、日常生活をはじめ私たち俳句同好の者たち

の吟行、句会も行うことができない状況にあります。本来なら西九州現代俳句協会の本年度総会・句会を開催の時期

でありますが、現状では困難でありますので昨年に続き開催を断念することと致しました。

皆さんとお会いする機会を断念せざるをえないことはまたに忍びないことありますが、何卒宜しくご了解くださいますようお願い申し上げます。

皆さんと一堂にお会いすることはできなくとも、私たちの俳句心は常に健やかで新鮮に進み続けていくと信じております。お元気で次の総会にお会いすることを楽しみにお待ち致します。

報告事項

① 会員動静報告

令和二年十二月三十一日現在の会員数は三十五名。小川裕子氏が再入会され、松尾信太郎氏、山崎明子氏が退会された。

② 前年度の行事報告

特に協会主催の行事は行わなかつたが、例年のように長崎原爆忌平和祈念俳句大会を後援し、会員九名が実行委員として大会の運営に参加した。

③ 会計報告

会計幹事荻野雅彦氏が会計報告書を作成し、監事の小山淑氏、中尾よしこ氏が監査を行った。

会計報告

| 西九州現代俳句協会収支報告書（事務局長預かり分について） | | |
|------------------------------|------------------|---------|
| (期間：令和2年1月1日～令和2年12月31日) | | |
| 収入の部 | | |
| 年月日 | 収入品目 | 金額(円) |
| R2.1.1 | 平成31年度(令和1年度)繰越金 | 12,594 |
| R2.2.10 | 西九州現代俳句協会より | 50,000 |
| R2.6.11 | 西九州現代俳句協会より | 50,000 |
| 合計 | | 112,594 |

| 支出の部 | | |
|----------|---------------------|--------|
| 年月日 | 支出品目 | 金額(円) |
| R2.1.30 | 往復はがき 35枚、84円切手40枚 | 7,770 |
| R2.1.31 | 84円切手 20枚 | 1,680 |
| R2.2.3 | 長角3号クラフト封筒100枚 | 430 |
| R2.2.25 | 倉田事務局長立替分払い | 30,000 |
| R2.2.28 | はがき 30枚 | 1,890 |
| R2.3.10 | 中の家旅店賃貸代 | 18,832 |
| R2.6.11 | 1円切手13枚、84円切手50枚 | 4,213 |
| R2.6.12 | ラベルシール | 850 |
| R2.6.17 | 140円切手27枚 | 3,780 |
| R2.6.17 | 紙袋8枚(20円) | 160 |
| R2.6.17 | 賞盾発送費用(9件)大会中止につき発送 | 6,435 |
| R2.6.24 | 第67回長崎原爆忌平和祈念俳句大会寄付 | 10,000 |
| R2.11.9 | 84円切手100枚 | 8,400 |
| R2.11.27 | はがき 30枚 | 1,890 |
| R2.11.30 | 長角3号クラフト封筒100枚 | 430 |
| 合計 | | 96,790 |

| | |
|------|---------|
| 差引残高 | 15,804円 |
|------|---------|

| 西九州現代俳句協会 令和2年決算報告書 (令和2年1月1日～令和2年12月31日) | | |
|--|---------|---------------------|
| 収入の部 | | |
| 項目 | 決算額(円) | 摘要 |
| 令和元年繰越金 | 84,438 | 122,900円(R2.6.17入金) |
| 本部助成金 | 139,740 | 16,840円(R2.12.16入金) |
| 預金利息 | 0 | |
| 合計 | 224,178 | |

| 支出の部 | | |
|-------|--------|--------------------|
| 項目 | 決算額(円) | 摘要 |
| 活動費 | 50,000 | 50,000円(倉田幹事長あて振込) |
| 振込手数料 | 220 | 220円(倉田幹事長あて振込手数料) |
| 合計 | 50,220 | |

* 幹事長あて振り込んだ活動費の収支は、別紙参照

| 収支決算 | | |
|---------|---------|----|
| 項目 | 金額(円) | 摘要 |
| 収入の部決算額 | 224,178 | |
| 支出の部決算額 | 50,220 | |
| 繰越金額 | 173,958 | |

上記の通り西九州現代俳句協会の会計を報告します。

会計 萩野 雅彦 (印)

監査 小山 淑 (印)
監査 平尾 子江 (印)

令和 3 年 4 月 // 日

④ 役員改選

役員の改選はなく、構成は昨年通り。

| | |
|-----|--------|
| 会長 | 前川 弘明 |
| 副会長 | 藤澤 美智子 |
| 幹事長 | 倉田 雅彦 |
| 幹事 | 荻野 哲彦 |
| 幹事 | 横山 富彦 |
| 幹事 | 萩原 由美枝 |
| 幹事 | 小島 淑 |
| 幹事 | 中尾 由江 |
| 幹事 | 横山 一夫 |
| 幹事 | 萩原 美智子 |
| 幹事 | 倉田 雅彦 |
| 幹事 | 前川 弘明 |

句会 ー事前投句の互選結果の発表ー

本大会の開催に先立つて、会員全員に各自二句の事前投句をお願いし、投句を頂いた皆さんに全投句のリストを郵送して互選を行つて頂きました。その結果を集計し、左記の通り事務局で表彰句を決定し表彰盾を郵送致しました。

最優秀賞 ビタミンのような便り来寒明くる

優秀賞

凍蝶は天然色の夢を見る

ひらがなの駄黄昏を雪といふ

優良賞

生きている負い目卒寿の敗戦日

初日の出原爆炸裂せし空に

コロナ蔓延かみしめる冬菜のみどり

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 相川 文子 | 小谷 一夫 | 小山 一歩 | 小谷 晃光 | 小山 裕子 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

○会員自選作品集2020

二〇二〇年一月より同年十二月までの一年間に詠まれた句を、各会員五句ずつ自選して寄せて頂きました。
氏名のアイウエオ順に掲載いたします。

相川 文子

街騒に遠く居て春菜刻みおり
婚六十年俎の疵のぬくもり
母の日や母を越えしは齡のみ
在ることの自問セイタカ泡立草
オリオンよスバルよひとりまたひとり

岡村 洋子

ふつとでる十八番の一首歌かるた
水仙の向きは夫々自己主張
励ましが試歩の支えに花の道
一病の痛さなだめて髪洗う
夫米寿共に踏ん張り大根蒔く

荻野 雅彦

而してアクリル板に秋が来る
新型コロナウイルス葛の葉と吹かれ
さまざまに高さが下がり鳥瓜
視野を出ことなく老いて秋の蝶
鴨と鴨より間を置いてひとつひと

江良 修

見えぬもの多し春暁の群衆
西瓜割る昔語りに続きあり
進化とは命懸けなり積乱雲
深読みの癖は直らぬ十六夜
冬ざれの箸軽くする温野菜

小川 裕子

花三分欄外に書く本音かな
泣きながら爆死者焼く火赤とんぼ
旧友と筆談の椅子秋うらら
賜日和古書店いつもボブディラン
はなむけの言葉のように栗の花

尾上 晏光

炎昼の坂沈黙の背は父か
ひらがなの駅黄昏の雪といる
光源は父かもしけぬ聖夜なり
パレットに溶く赤枯野の一輪よ
一人称の春風寺町の通りから

小山 淑

酒場[きさらぎ]荷風のステッキほしくなる

あらかぶ釣る湾口白き父の色

仏閣の壁の一揖梅雨の蝶

青僧ひとり十七音の良夜なり

月下遊学不呆尊師の背をなでて

小鳥来る被爆大樹のある限り
断崖は死を呼ぶ所沖縄忌

あの日より嫌ひとなりし雲の峰
わた雪や宙をみつめ父やある

揚羽蝶ルオーの黒き輪郭線

八月や日に日の空の恐ろしく

小谷 一夫

佐々木苗恵
二番草聲かけゆきぬ姥二人
宮の森赤く染め入る夕日かな

わた雪や宙をみつめ父やある
ままごとの旗を見て来よ姉一人

小川へと障子一まい掛けもちて

倉田 明彦

地に降りて不慣れな一步春の鳶

水換へに金魚掴まるところなし

声はらみくる八月の拡声器

防護衣を着て炎暑に耳遠し

かまきりの肩幅狭し蝶を食む

小山 一歩

病み明けの男にもある初鏡

鱗の手に昔女難の相ありと

爛つけを待たず目刺を齧りおり

泣き癖の妻へ勤労感謝の日

生きている負い目卒寿の敗戦日

澤井 弘子

犬ふぐり青い瞬き春が来た

転失氣はオナラの事なり梅ひらく

アサギマダラ見送りし後方オミナエシ枯る

めずらしきまあるいレモン椀ぐは何時

心身の平常値因数分解

古賀 愛子

ふんわり老い春潮遊ぶ岬かな

母なつかし乱菊よよと抱きおこし

なめこ汁自分の弱さのり越えて

たまゆらの命いとしやなずな粥

冬夕焼頬そめ空をかけめぐる

酒井 文

梅酒で酔う友は異国に住むと云う

冬すみれ買って優しくなる時間

ラグビーを熱く語りし君がいた

緑風に貞めくられ龍馬伝

友の文字変らず細き夏便り

津田 番茶

店頭の品切れとあるマスクかな

客船の久しき埠頭卯波立つ

水洩れる二百十日の古ホース

玄関にどつかと届く今年米

冬の蠅坐すればすぐに眠くなる

鳥居 國臣

巡視船の登舷礼や雲の峰

机身はなさぬ被爆者手帳更衣

牛を捨て田を捨て八十路びわの花

産土は丸山かいわいからす瓜

十二月八日女ばかりの野良仕事

畠中イツ子

ズツキーニ地味でも深い友情です

鬼灯や父母につながる四十人

植田美し女性消防団の顔

夏落葉激情の音目が痛い

体内のスイッチの色梅の花

藤澤 美智子

父と酌む酒杯に満ちる淑氣かな

沈黙の壁や手強い青蛙

こんなにも深い青空蝌蚪知らず

どの石も児の顔原爆資料館

冬うらら旅する蝶の物語

中尾よしこ

森のどこかが楽器になる早春

初燕くるりと白くるりと黒

緑雨緑夜着信音はノクターン

被爆の日ひたすら雑巾がけをする

テノール始まる虫の夜が明るい

原田 成子

教会に古き石垣草青む

ばあさまの呼ぶ声今も白椿

装丁を群青色に聖五月

聖堂の小径は古く著義の花

天高し岸辺のビルの白ばかり

前川 弘明

涅槃図の鳥獸うごく初明り

独立劇場廁の壇に梅一枝

囁りの森に帽子は置いておく

蝶として放つわれらの怒りの詩

月光を抱き凍瀧は直立す

長島富美枝

大根一本昭和の母の辛苦かな

白菜の芯より突如泣き笑い

蓑虫やボーッと生きて何が悪い

昭和西暦こんがらがつてベンベン草

人果てし後を流れて二月の川

久田 浩一郎

信号機春に踏み出す青となり

それぞれに何するでなく緑蔭に

つきはぎの言葉を散らし木の葉雨

木枯や回転ドアの今日明日

春の雨モノクロ映画のような昼

舛田 優子

実南天真つ赤に垂れて非核の空

春の荷のあふれる袋ふきのとう

耳遠し人にコロナの壁がある

イエスかノウか核かコロナか病む地球

生も死も一筆で足る青葉風

松尾 すみ子

初つばめ図書館の坂惜しむかな

さくら東風父の音する雑木山

小指ほどの青い初物ふきのとう

花万朵かの居酒屋の別れかな

冬瓜汁暮らしのなかにいつも母

森 誠

象ではない鯨でもない柳かな

鬼の目に涙少々芋の露

老牛の一歩一歩は草の花

蜩の開き尽くされてなお残る

煙突が三味線を彈く秋霖

山本 奈良夫

あいびきの途中で老いる乳房かな

ムンクの叫び鶏小屋に満ち原爆忌

東支那海溢れていたり十三夜

裸木や余白はすべて谷佳紀

腸に拈華微笑の椿かな

横山 哲夫

薦枯れる見えぬ何かに縋つたまま

四月馬鹿風呂が沸いたと風呂が言う

夏瘦せの前からモディアーニの女

日本に帰化する人の夏化粧

牛蒡としてまじめに育ち引き抜かる

編集後記

令和二年度の「西九州現代俳句協会

総会および句会」は令和三年二月二十

日に開催予定でしたが、新型コロ

ナ・ウイルス感染症の蔓延により、昨

年に引き続いて中止の止むなきにいた

りました。来年はワクチンもいきわ

たって感染の終息が期待されますが、

先行きは依然不透明です。不自由な毎

日ですが、感染に注意して日々を過ご

し、新しい年度の本会の活動に繋げて

参りましょう。

二〇二一年五月二三日

西九州現代俳句協会事務局長

倉田 明彦

